身近な地域・元気づくりモデル事業　意見交換会を平成21年3月14日（土）に開催しました！

地域が　力（ちから）　をつけるために～*もっと住みよい地域に変えていく！*～

◆当日の主なプログラム◆

○身近な地域・元気づくりモデル事業の事業概要説明

○身近な地域・元気づくりモデル事業モデル地区から活動報告

1　旭区若葉台地区　　山岸弘樹さん（若葉台連合自治会会長）

2　磯子区滝頭地区及びその周辺地区　　神﨑良嗣さん（子どもの幸せを実現する会会長）

3　戸塚区ドリームハイツ及びその周辺地区　　五辻　源さん（ドリームハイツ地域運営協議会副会長）

4　栄区湘南桂台自治会　　城戸謙治さん（湘南桂台自治会会長）

5　栄区公田町団地地区　　大野省治さん（お互いさまねっと公田町団地運営委員長）

○意見交換

コーディネーター　まちづくりコーディネーター　山路　清貴さん
コメンテーター　立教大学社会学部現代文化学科教授　江上　渉さん
横浜市市民活力推進局市民協働推進部長　林　琢己

添付資料

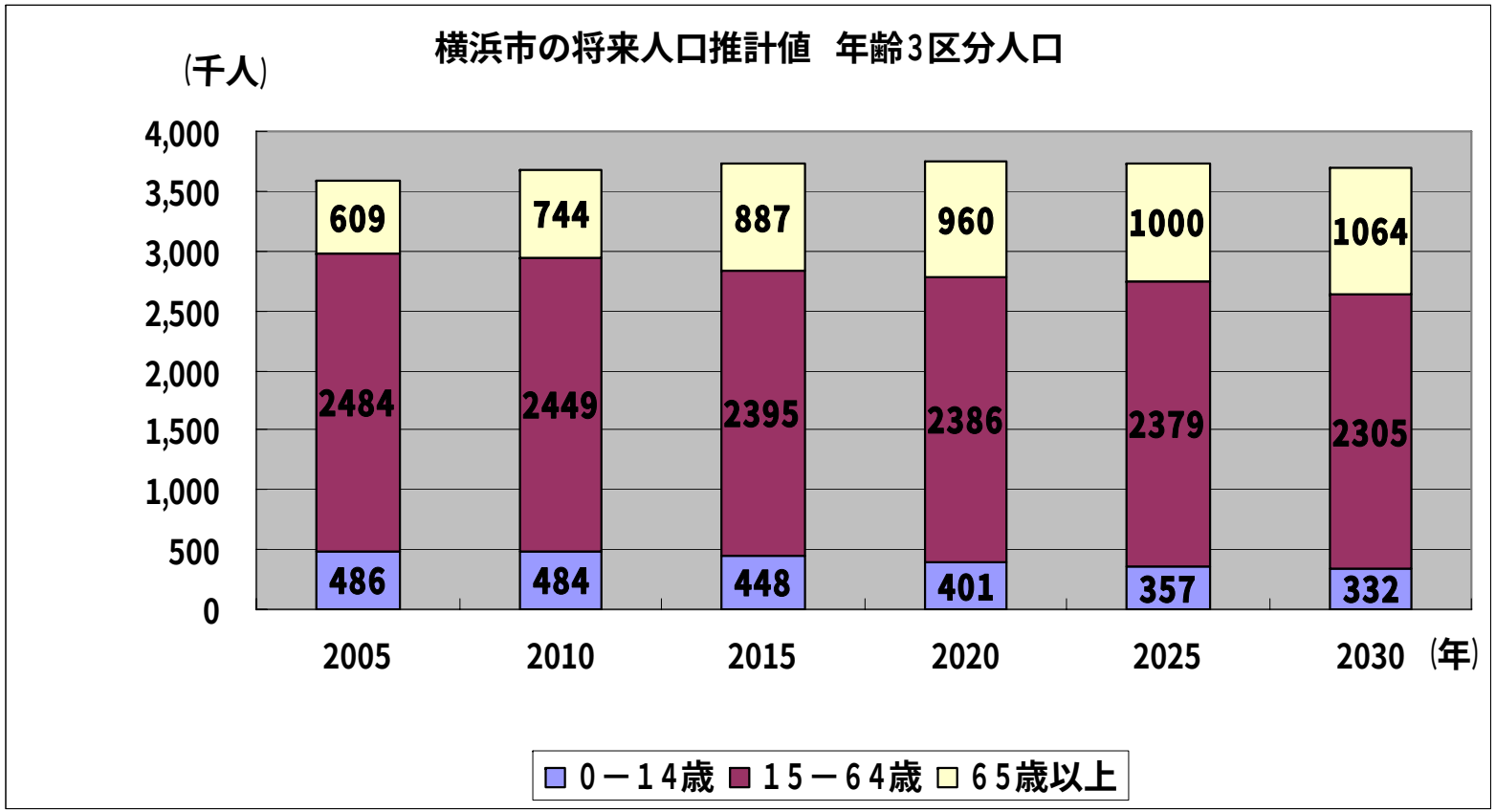
- **身近な地域・元気づくりモデル事業の事業概要説明（p2～p13）**
- **身近な地域・元気づくりモデル事業　モデル地区事前アンケート結果（p14～p17）**
- **意見交換会での会場からの主な意見（p18）**
- **当日の様子（p19～p21）**

身近な地域･元気づくりモデル事業とは？

～背景とめざす姿～

横浜市市民活力推進局協働推進課

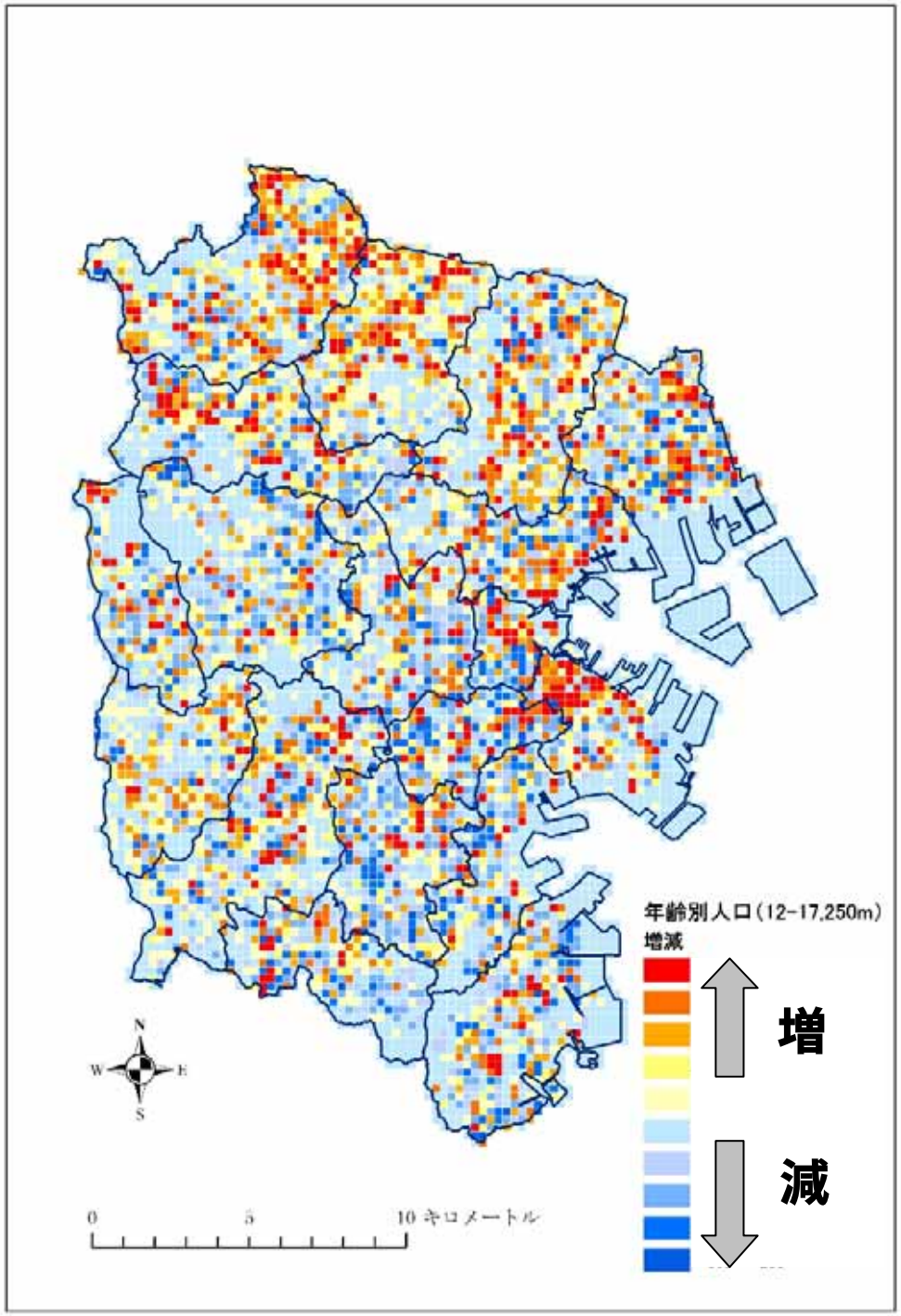
少子高齢化の進展


横浜市の将来人口推計値　年齢3区分人口
(千人)
4,000
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
609
744
887
960
1000
1064
2484
2449
2395
2386
2379
2305
486
484
448
401
357
332
2005
2010
2015
2020
2025
2030
(年)
0－14歳
15－64歳
65歳以上

細かくみれば人口増減はまだら模様（平12～17）

・地域別に細かく見ると、北部の地域でも人口減少が始まっている。

・南部の区でも、人口が増加している地域が、点在している。



少子・高齢社会の地域課題は、総合的にあらわれる

南西部郊外の団地の例

住む
高層階から1階へ住替え
空き室の活用
団地の建て替え･改修

買い物
スーパーの撤退
商店街の衰退

交通
病院や駅への
ミニバスの運行

教育
小･中学校廃校
高齢者施設への再利用

医療･介護
往診、訪問看護、訪問介護、
家事、援助などのサービス

就労
前期高齢者の地域での就労

遊
農地や緑地の維持管理と
心身の健康

昭和50（1975）年の人口構成

総人口	7,904人
年少人口	2,848人
生産年齢人口	4,902人
老齢人口	150人

→

平成12（2000）年の人口構成

総人口	6,546人
年少人口	640人
生産年齢人口	4,981人
老齢人口	907人

→

平成27（2015）年の人口構成

総人口	5,117人
年少人口	370人
生産年齢人口	2,542人
老齢人口	2,205人

市内の地域の様々な活動

【自治会町内会】

２，８６８団体

加入世帯数　１，２０９，６７０世帯　　加入率７８．４％

(平成20年4月1日現在)

【NPO法人】

横浜市内に主たる事務所が　所在する法人数

１，１９８法人

神奈川県認証　１，０９３法人　　内閣府認証　１０５法人

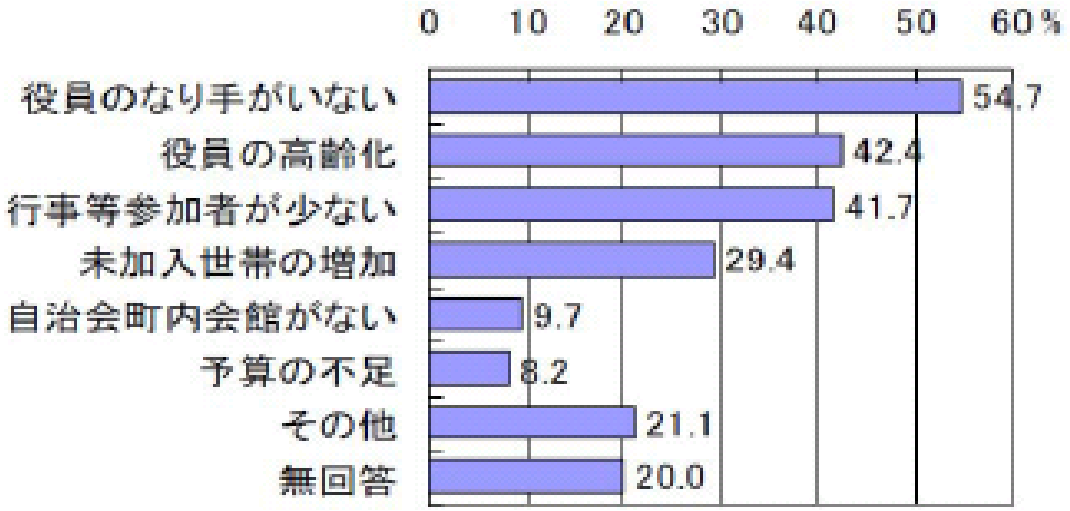
(平成21年2月末現在)

自治会町内会の運営上の課題

自治会町内会

自治会町内会の運営上の問題点

自治会町内会の活動上の問題点（複数回答可）



自治会町内会長について
会長は60 歳以上が４分の３。選出方法は、推薦制６割、輪番制２割、投票制１割。大半が会長職に１～２年の任期を設けているが、実際の在職年数は「５年以上」が４割弱。

平成15 年度自治会町内会実態調査　より

身近な地域・元気づくりモデル事業　推進イメージ

現在、地域では、さまざまな活動が行われています。

防犯ボランティア
青少年指導員
体育指導委員
防災拠点運営委員会
民生委員・児童委員
地区社協
地区連合・自治会町内会

団体同士が連携することによって

商店会
ＮＰＯ
ＰＴＡ
企業
学校
など

様々な団体が
参加する
ネットワークの場

合意形成しながら
課題解決に取り組む

協働・支援

行政

区役所	**課を越えた横断的な体制**

連携・支援

市役所（局）	**区支援チーム**

地域の課題が解決！

市民満足度の
高い地域づくり

メリット１　地域の課題や資源を、細かく把握できる

地域のことは、地域の方々が
一番よく知っている

例えば・・・

○「○○のおばあちゃんは、一人暮らしで、足も悪いから、地震があったら、一人で逃げるのは大変かも・・・」

○「△△で、子どもがよく遊んでいるけれど、まわりから見えにくいので、あぶない」

○「大きなマンションができて、若い世代が引っ越してきたので、自治会の活動にも参加してもらいたいのだが・・・・」

○「自治会の防犯パトロールが始まってから、空き巣が減ったなあ」

○「××公園から見える景色はすばらしいけど、最近、よく、ごみが散らかっていて、残念だなあ」

地域の様々な課題

地域の魅力や長所

地域で行われている
様々な活動

地域にいる多様な人材

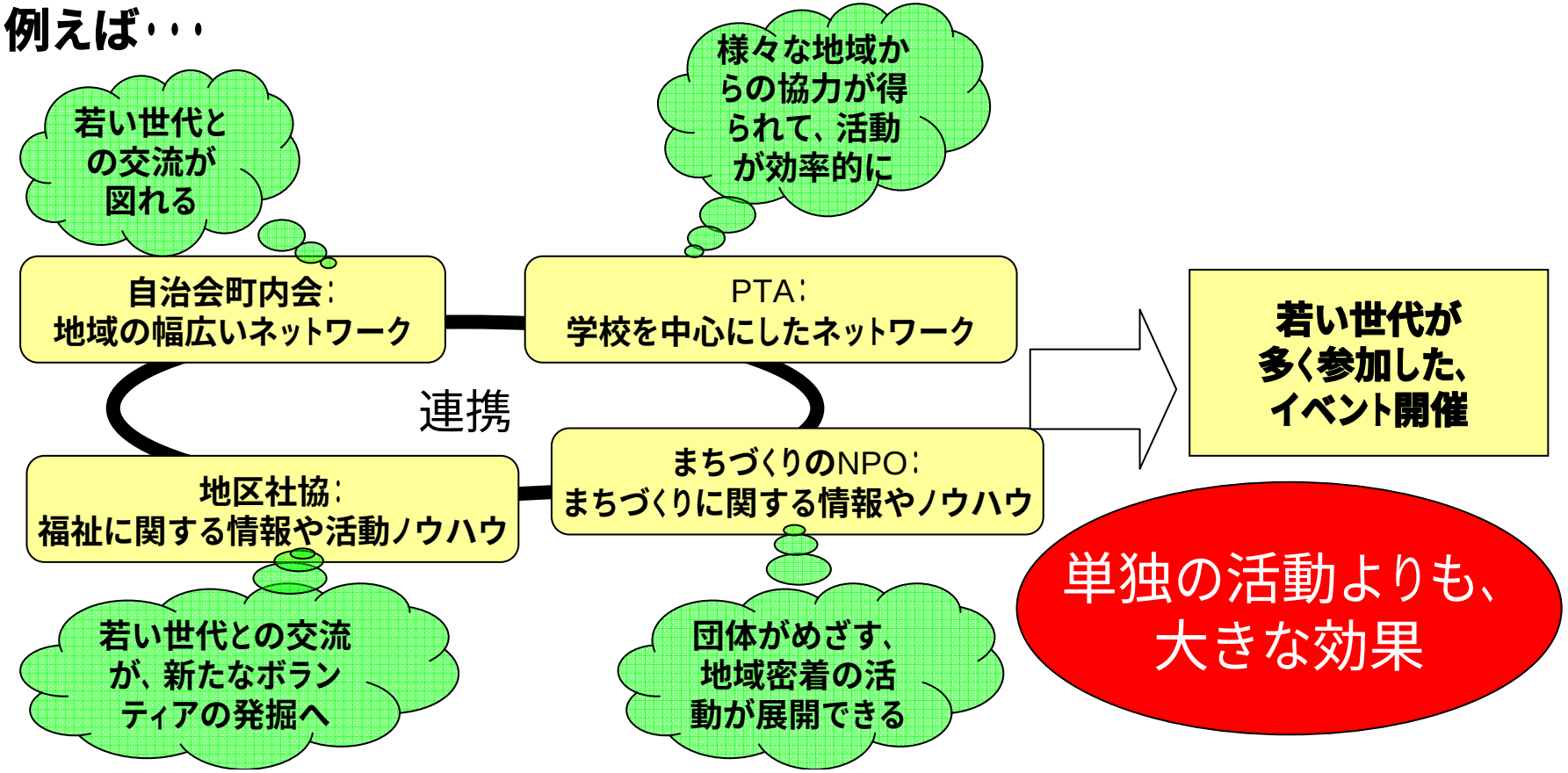
地域全体で共有

地域の事情にあった
取組が可能に

メリット2　連携によって、地域の力が発揮される

当然ですが、必要性があって、連携が生まれます

例えば・・・



モデル地区とは・・・

＜3要件＞

・複数の団体や個人が参加

・話し合いによる合意形成

・連携して地域課題を解決

現在、8区に、１９地区

モデル地区に対する行政の支援

地域にあわせた、オーダーメイドの支援へ

地域の取組に役立つ情報等の提供

○同様の取組をしている、他の地域の事例紹介

○行政が持っている、様々な支援メニューの提供

○連携できそうな団体等の情報提供や仲介　　など

地域にあわせた、縦割りでない支援

○様々な部署が、ばらばらに地域に伺うのではなく、連携した支援

○地域の課題を、地域のみなさんと一緒に考える

○行政が決めたやり方ではなく、地域が決めたやり方を支援　など

今後の課題　～地域の課題解決の仕組みづくりに向けて～

モデル地区から出されている課題

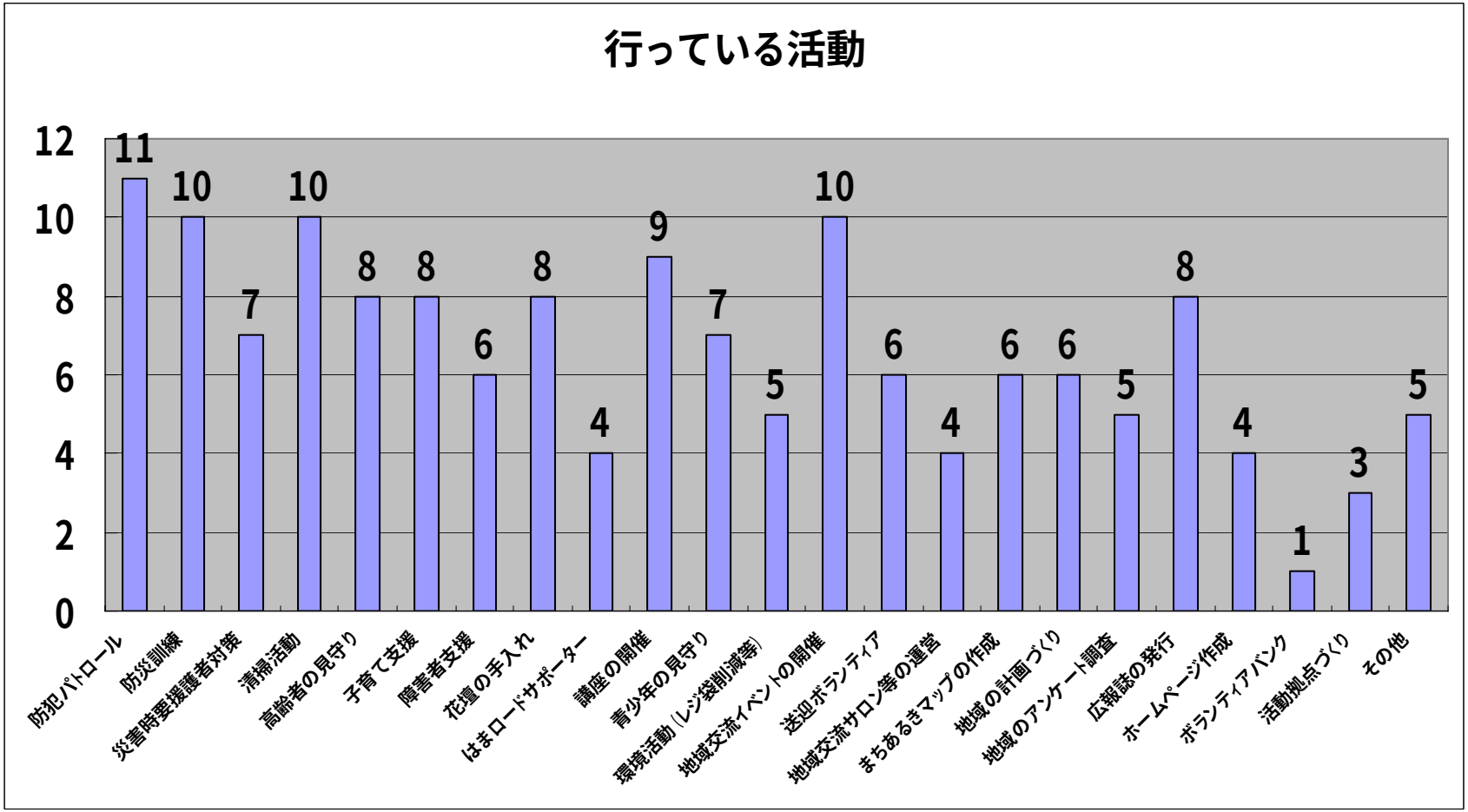
○担い手、特に若い世代の参加促進
○合意形成の方法
○取組を住民に知ってもらう
○活動拠点の確保
○安定した活動資金の確保

など

地域の取組が
進めやすく
なるよう、
支援策や制度の検討

身近な地域・元気づくりモデル事業　モデル地区事前アンケート結果

１９地区中、１１地区回答（回収率　57.9%）



【その他】

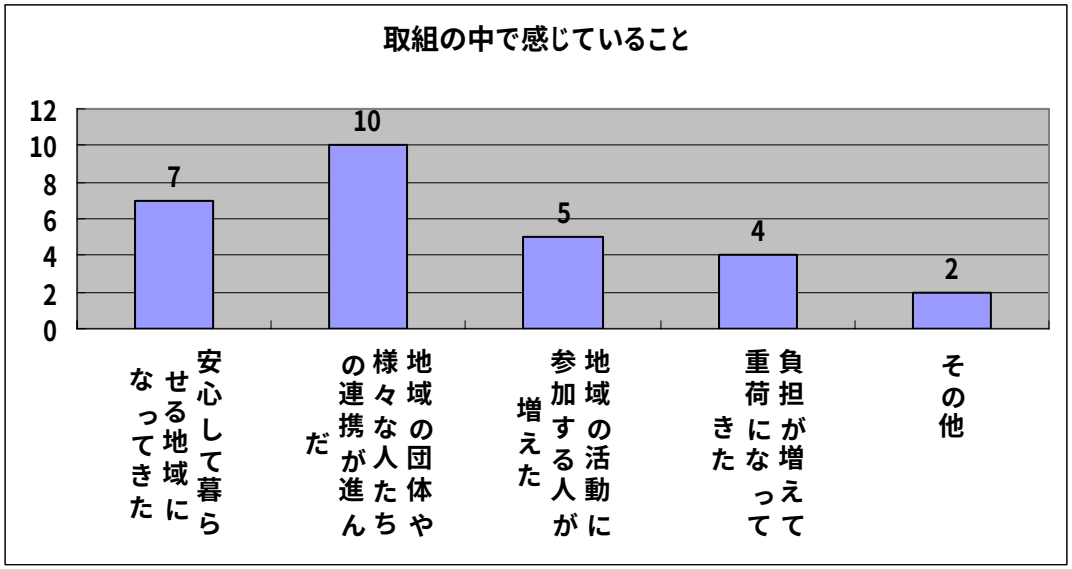
○なべの会（花見やクリスマスなど連合のイベント時に料理などを作るボランティア活動）【新子安・子安１丁目・入江】

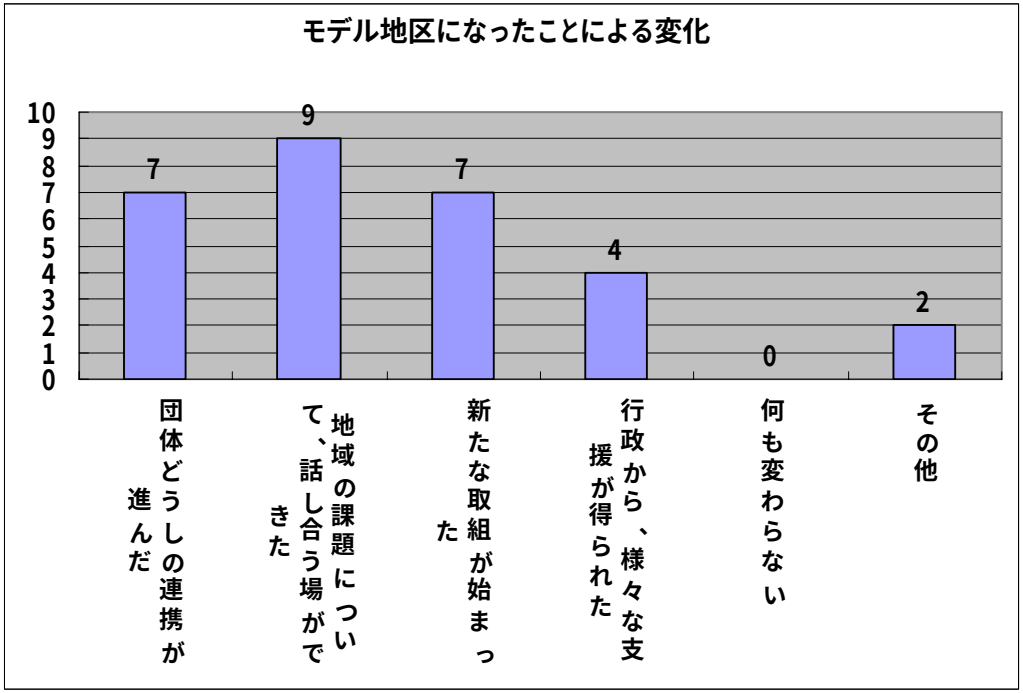
○環境プロジェクト推進（環境創造局との協働事業）、若葉台なんでも相談（電話相談）、総合型スポーツ文化クラブの運用、学校再編・跡地活用兼用調整委員会活動、障害者の居場所づくり研究会活動【若葉台】

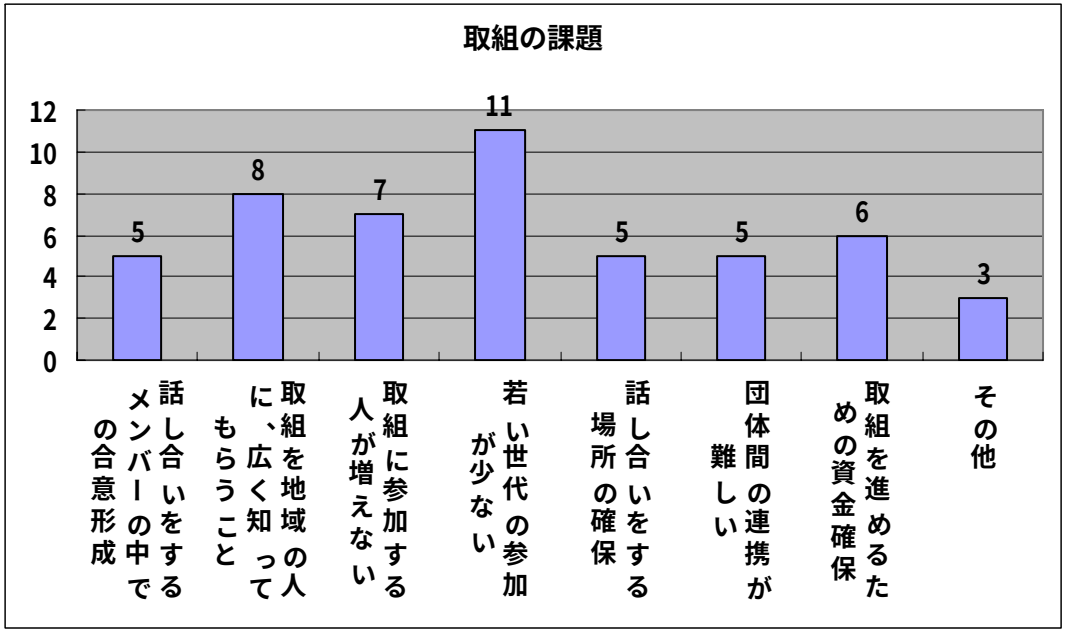
○中学生の学習支援、授業参観、校門での登校時挨拶活動、幼保小中高生に対し、登下校時の挨拶活動【滝頭】

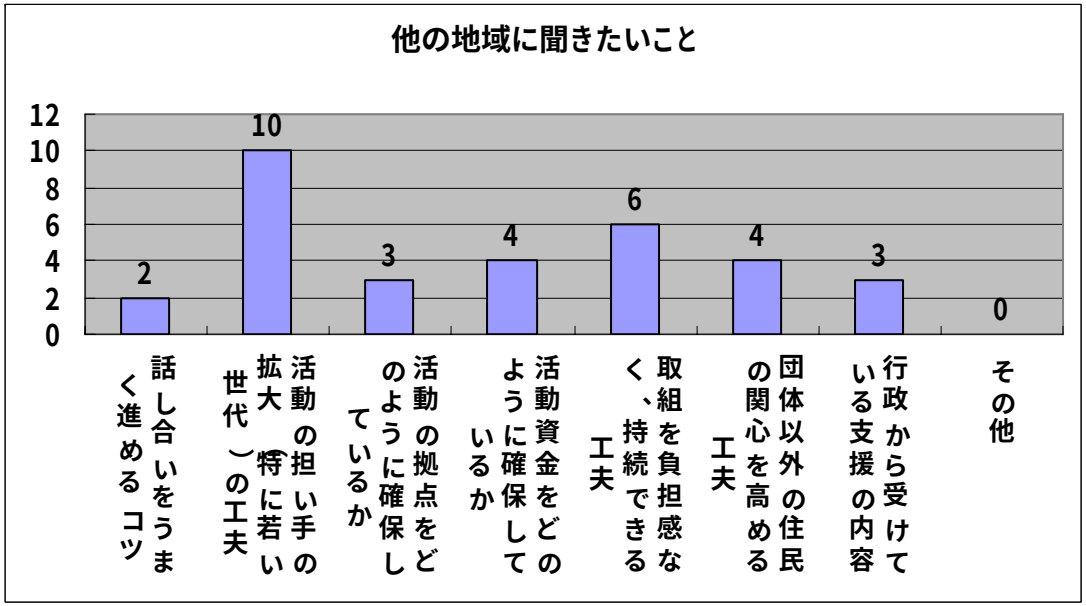
○地域給食活動、ディサービス事業、学童保育、文庫活動、家事・介護の助けあい活動【ドリームハイツ】

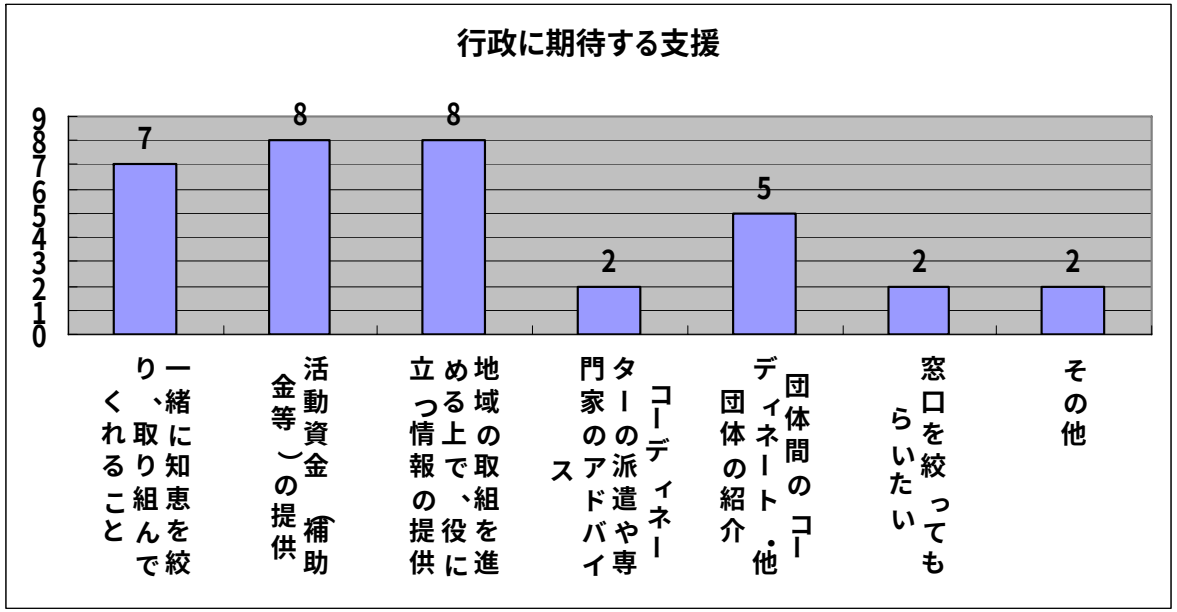
○イトーヨーカドーとの協働（ミセコン）　＊店コンサート【湘南桂台】

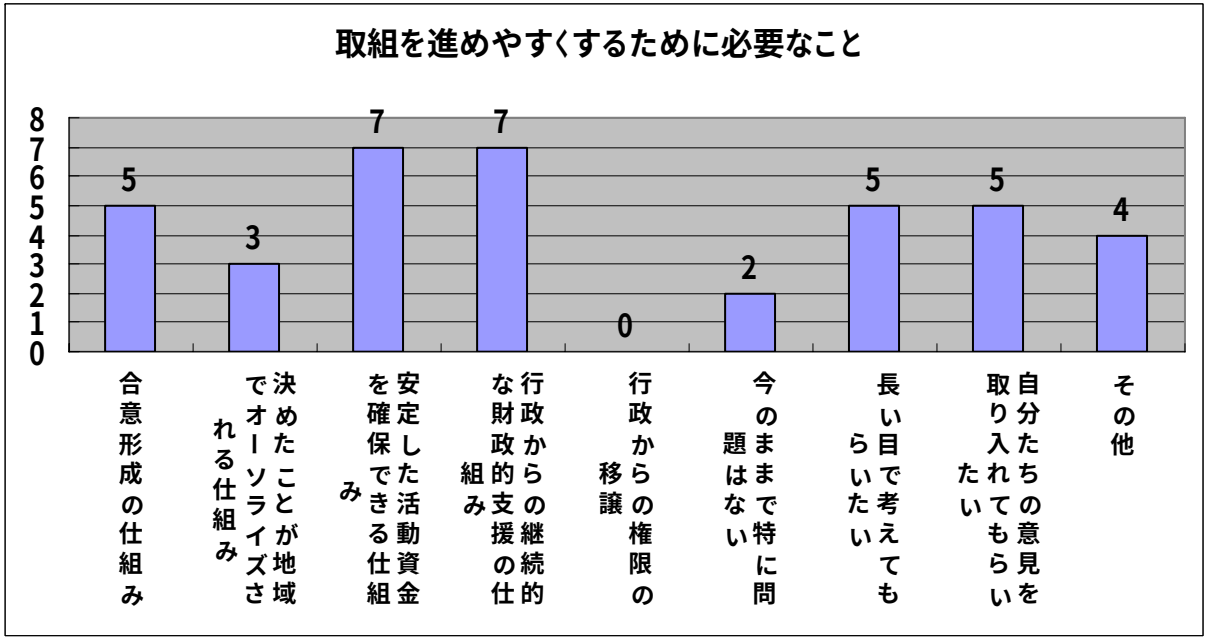

取組の中で感じていること
12
10
8
6
4
2
0
7
10
5
4
2
安心して暮らせる地域になってきた
地域の団体や様々な人たちの連携が進んだ
地域の活動に参加する人が増えた
負担が増えて重荷になってきた
その他


モデル地区になったことによる変化
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
7
9
7
4
0
2
団体どうしの連携が進んだ
地域の課題について、話し合う場ができた
新たな取組が始まった
行政から、様々な支援が得られた
何も変わらない
その他


取組の課題
12
10
8
6
4
2
0
5
8
7
11
5
5
6
3
話し合いをするメンバーの中での合意形成
取組を地域の人に、広く知ってもらうこと
取組に参加する人が増えない
若い世代の参加が少ない
話し合いをする場所の確保
団体間の連携が難しい
取組を進めるための資金確保
その他


他の地域に聞きたいこと
12
10
8
6
4
2
0
2
10
3
4
6
4
3
0
話し合いをうまく進めるコツ
活動の担い手の拡大（特に若い世代）の工夫
活動の拠点をどのように確保しているか
活動資金をどのように確保しているか
取組を負担感なく、持続できる工夫
団体以外の住民の関心を高める工夫
行政から受けている支援の内容
その他


行政に期待する支援
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
7
8
8
2
5
2
2
一緒に知恵を絞り、取り組んでくれること
活動資金（補助金等）の提供
地域の取組を進める上で、役に立つ情報の提供
コーディネーターの派遣や専門家のアドバイス
団体間のコーディネート・他団体の紹介
窓口を絞ってもらいたい
その他


取組を進めやすくするために必要なこと
8
7
6
5
4
3
2
1
0
5
3
7
7
0
2
5
5
4
合意形成の仕組み
決めたことが地域でオーソライズされる仕組み
安定した活動資金を確保できる仕組み
行政からの継続的な財政的支援の仕組み
行政からの権限の移譲
今のままで特に問題はない
長い目で考えてもらいたい
自分たちの意見を取り入れてもらいたい
その他

身近な地域・元気づくりモデル事業　意見交換まとめ

2009.03.14

地域が力をつけるために　～もっと住みよい地域に変えていく～

◆ 活動のきっかけは？　秘訣は？

●まずは現状・課題を知ろう！

（滝頭）
- まちの方に、頑張っている生徒・教師の姿を知ってもらう
- 地域の人に、学校に足を運んでもらった。とにかく、見てもらう。

●行政・専門家からの声かけ
- 大学、専門家が入ってくれると、心強い。
- 地理的に近いことがきっかけで、つながりができた。
- 学生が卒論研究のため取材に来る→地域にも刺激となる。
- モデル地区となったことが活動のきっかけ。
- 行政の担当者と以前仕事を通して知り合いだった。

●地域の人たちの意識・モチベーションの高さ

（若葉台）レジ袋の辞退率（13%→82%）を上げた秘訣は？
- 開発された団地の中で、自然環境への意識が高い。
- 団地内の商店街がエコバックを無償配布。
- 緑が多く、温暖化が進んでいないという調査結果がモチベーションに。

●広報　コミュニケーション
- 新聞や掲示版ではなく、人と人との関係からの広報が大切。

◆ 活動のテーマ

●地域では、テーマは総合的！
- 福祉、防災…ではなく、総合的な身近な暮らしが、テーマになる。
- 若葉台管理センター　→　修繕のノウハウ、防犯・防災自治会ができないことを担っている。
- 里山の手入れ　区と協力して行っていきたい。
- まちづくりの目的はコミュニケーション。さまざまな事業をすることが目的ではない。（手段としてあるだけ）

◆ 人と人･団体と団体の連携

●地域の魅力をつくる

●地域の中の人材活用

●コーディネートする人

- 「助ける人」「助けられる人」ではなく、「おたがいさま」。
- 若い人が戻って来たくなるハード（道路など）の整備
- いいまちづくりをして、かつて、まちから出て行ってしまった人を呼び戻したい。
- 地域にいる、市民の中の“プロ”を使う。
- 横つなぎをする、コーディネートをする人が必要。
- 自治会がマネジメント（裏方）。若い住民が主役となるようにする。いい思いをさせることが大切。

●自治会とＮＰＯの連携

●１つの団体ではできないことをする

●縦割りではなく、横つながり

- ２つの自治会、５つのＮＰＯが協力して、一つの団体では出来ないことをしようと思った。（ドリームハイツ）
- 地域運営協議会のもとに、自治会町内会、ＮＰＯが集まっているという仕組みでやっている。（ドリームハイツ）
- 自治会町内会とマンション管理組合との関係、良かったり、難しかったり・・・・
- 情報の共有は、タテ割りの組織では、できていなくても済んでしまうが、地域では、そうはいかない。
- モデル事業をやって、他の団体との連携が進んだ。

◆ 若い担い手の確保

●イベント活用

●一本釣り

●子育てを終えた世代

- 夏祭りから清掃まで、イベントが若い人とのコミュニケーションのきっかけとなる。
- 若い担い手は、イベントでの一本づりが基本。
- ６０歳間近の住民をリサーチしておく。
- 子育てを終えた、エネルギーのある世代を、地域づくりに誘い込む。
- 小中学生への環境教育などで、地域を愛してもらうことが、若い人がもどってくるきっかけに。

◆ 行政との協働、地域の自主性、行政の役割

●話し合う場ができる

●専門家・職員の継続的な係わりが必要

●情報提供・共有が大切

●相互理解が大切

- 連合が外との窓口となり、行政とのパイプになる。
- 行政とやることで、地域ケアプラザとの連携ができた。
- 行政と一緒にやることで、活動が公に認知された。
- 立ち上げ時の活動説明や協力依頼などで、行政の人が同道していると、やりやすい。
- モデル事業をやって、場ができた。
- 地域が変わるとともに、行政も変わっていく。
- 行政がコンサルタントを派遣してくれた。
- 人口統計などの情報をもらったことがよかった。
- 継続的に人を派遣してもらえることで、学校との連携が進んだ。
- 地域が力をつけるほど、行政の支援が必要になる。（逆説的だが）
- 人と人とのお付き合いで、互いに理解しあうことが、これからは重要になる。

◆ 行政もかわるべきこと･求められる支援策

- 有償ボランティアの雇用のための人件費が必要。
- 関係が築けてきたところで、行政側が異動してしまう。
- 地域全体を見れるコーディネーターの人件費。
- 地域と一緒に活動し、サポートしていくことが、これからの役所の役割ではないか。
- 行政と地域の関わり２つある。組織と組織のつきあい。人と人のつきあい。

“つなぐ”

オープンになることで組織・グループが、形式でなくつながる。

“開く”

- 心を開く。
- 想いをオープンに話し、聞く。

若い人を入れるためには、“地域”にこだわらず、他所の学生を入れた方がいい。

意見交換会の様子